

# 第8回 ペルシア戦争とペロポネソス戦争

## 1 ペルシア戦争

- そのころオリエント世界では、( )が大帝国を築いていた。  
→アナトリア半島西部のギリシア人の植民市も、その支配下に入っていた。  
→ ( )年、( )の( )が反乱を起こした。

### <第1回ペルシア戦争>

- このイオニア植民市の反乱を同じイオニア人のアテネが援助した。  
→アケメネス朝の( )はこれに怒り、遠征を行った。  
→しかし嵐によって失敗した。

### <第2回ペルシア戦争>

- アケメネス朝のダレイオス1世が再び遠征を行った。  
→前490年、( )でアテネに敗れて、失敗に終わった。



ミレトス

イオニア植民市の中心都市であるミレトスは、最古の哲学者として有名なタレスが活動した場所である。



ダレイオス1世

第5回のプリントをもう一度見ておこう。アケメネス朝側につくポリスも多く、全てのギリシア人がペルシアと戦ったわけではない。



マラ톤の戦い

上陸したペルシアの大軍に対して、アテネの重装歩兵が突撃して勝利した。この戦いが、マラソンの起源とも言われる。

### <第3回ペルシア戦争>

- 前480年、アケメネス朝のクセルクセス1世が3度目の遠征を行った。  
→ ( )で、レオニダス王が率いるスパルタ軍を全滅させた。  
→しかし( )で、アテネの( )将軍率いるギリシア艦隊に敗れた。  
→前479年、( )でもアテネ・スパルタの連合軍に敗れた。



クセルクセス1世

ダレイオス1世の息子である。ペルシア戦争のような遠征や巨大建築物の建設は、財政を悪化させた。



映画『300』

テルモピレーの戦いを描いた作品。歴史映画というより、ファンタジー映画として見た方がいいかも。ただスパルタの雰囲気はよく伝わる。



テミストクレス

侵攻するペルシアに対して、海上で迎え撃つことを主張した。戦後は英雄となったが、そのことが彼の人生を狂わせた。

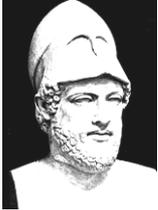
## 2 アテネの繁栄と民主政

- 戦後アテネは、アケメネス朝の次の遠征に備えて多くのポリスと( )を結び、その盟主となった。

- アテネは、防衛費を集めるという理由で他のポリスから資金を集めていた。  
→結局アケメネス朝は攻めてこず、資金はアテネが自分のために使った。  
→アテネはアテネ帝国といわれるほど強力になった。

◆ ( ) 時代 (前 443～前 429 年)

- ・サラミスの海戦では ( ) の漕ぎ手として ( ) が活躍した。  
→そのためペルシア戦争後、アテネでは無産市民の発言力が増していった。  
→全ての成人男性市民が参加できる ( ) が最高機関となった。  
→これによりアテネの民主政治が完成したとされる。



ペリクレス

アテネが最も繁栄した時代に、将軍職を務めた。デロス同盟の資金をアテネのために流用したことは、ペロポネソス戦争を招いた。



三段櫂船

200 人の乗組員のうち、170 人は漕ぎ手である。船先につけた衝角を、相手の船の横にぶつけ、浸水させるという戦い方だった。



アゴラの跡

アゴラについては、第6回のプリントをもう一度見よう。ここに市民が集まって、民会が開催された。

<アテネの民主政の特色>

- ① 民会に参加できるのは、18 歳以上の ( ) に限られた。  
※市民権法により、両親がアテネ市民でないと市民権は得られなかった。
- ② 18 歳以上の男性市民が民会に集まり、多数決をとる ( ) であった。
- ③ 公職はくじ引きで決められたが、( ) 職だけは選挙で選んだ。
- ④ 民衆裁判所は、民衆から ( ) がくじ引きで選ばれて判決が出された。
- ⑤ 政治家や役人の不正を、民衆が弾劾裁判で訴えることもできた。

3 ポリス社会の変容

・デロス同盟の盟主であるアテネに対して、( ) の盟主であるスパルタがこれに対抗し、前 431 年に ( ) が始まった。

- ・アテネでは戦争中にペリクレスが病死し、( ) と呼ばれる政治家たちが民衆を扇動する ( ) をおこなったため政治が混乱した。  
→アケメネス朝とも結んだスパルタが勝利して、ギリシアの盟主となった。
- ・ギリシアの覇権をにぎったスパルタに対して、( ) が対抗した。  
→前 371 年、レウクトラの戦いでスパルタを破り、ギリシアの覇権をにぎった。  
→その後はアケメネス朝の介入もあり、ポリス間の争いが続いた。
- ・長引く戦争と疫病によって農地は荒廃し、人口が減少して貧富の差が拡大した。  
→兵士も ( ) が多くなり、伝統的なポリス社会は変容していった。



トゥキディデス

ヘロドトスと並んでギリシアを代表する歴史家である。ペロポネソス戦争について、客観的・教訓的な視点から、詳細な記録を残した。

